太田川ダム濁水対策検討会

設立趣意書

太田川ダムは、平成２１年７月の運用開始以降、太田川流域の洪水被害防止や遠州広域水道の安定給水等に期待された役割を発揮し、ダム貯水池である「かわせみ湖」の周辺は、多くの県民が訪れ散策などに利用されるなど、新たな水辺の憩いの場として県民に親しまれている。

しかし、大規模な降雨に見舞われた場合に、上流で発生する濁水が貯水池へ流れ込み、洪水が終わった後も数か月にわたり貯水池から濁った水が放流される現象が発生している。

このため、下流の太田川における河川環境や景観への影響や、鮎釣り・川遊びなどへの影響等が懸念され、森町や内水面漁協関係者などからは、地域の財産である「吉川」を守るよう早急な対策を望む声が高まっている。

昨今、各地で記録的な豪雨が発生しており、太田川ダムにおいても大規模な出水による濁水の発生頻度が増加する懸念もあることから、早期に濁水対策の検討を行う必要がある。

本検討会は、静岡県が太田川ダムの濁水対策を検討するにあたり、地元関係者等の意見を聴取し、学識経験者の指導・助言を得ることを目的として設置するものである。